

此書院の爲に推考の行を志あふ事をあは
まきて出づる月のお屋敷ぬりねと云ふ歌々
古歌まやとたわぶ人もあり又雅集曰當山
又十世別當天香師の言才差樹院嘗海ハ
水之淵中細玄の此皇なれをけち子の事禁
中記秘而して鐸下さるゝさよー此又五省
て別水之淵皮は旨を此尋ありなれをいり
りも 崇峻帝の皇子こもよー此又出下
されりよー一君へこり皇子の跡あふ地を
皇孫と云傳へ傳るゝとそ
阿古志の松の事村山郡達
考の下に委注す

一本羽黒

老ふふ伏曰阿久志の国山の方に小山あり
市羽黒といふ中古と権現の神祠僅の禿倉
まてけ而はありーとそ殿一本羽黒といふ
名を跡をり今いふ表ともいふ禿倉なる所の
當ふ下なる事あり社系の此免を見當
電をんうゝあゝ是をうゝを々に一本羽黒
よて見失ふる時神前に平伏ー免をけを
しめあゝと一公は祈られを立而は免を得
こり靈驗の新なる事を感ー禿倉へ傳る